

## 1 学校教育目標

・かしこい子      ・思いやりのある子      ・たくましい子

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○「子供たちが輝く学校」 ・子供一人一人のよさを認め、励まし、可能性を最大限に引き出す学校 ・教職員が豊かな感性と情熱をもって、学び続ける学校 ・地域・保護者ととともに、地域愛・学校愛をもった子供たちを育てる学校
○児童・生徒像	・自ら問いをもち、見通しをもって、学び続ける子 ・自分や友達のよさを認め合い、励まし合い、高め合える子 ・夢に向かって、しなやかにたくましく挑戦し続ける子
○教師像	・子供一人一人のよさを認め、励まし、可能性を最大限に引き出す教職員 ・授業力向上に熱意を注ぐ教師 ・学校と地域を愛する教職員

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

### 【学校の現状】

- ・児童は明るく素直である。落ち着いた中にも活気のある姿が多く見られるが、自尊感情が低い傾向がある。
- ・教職員は、若手教員が多い中、よりよい学校を創っていこうと日々一生懸命努力しており、授業力の向上にも力を注いでいる。
- ・保護者・地域も学校に期待を寄せており、教育活動に協力的である。生活習慣や家庭学習などの定着に向けて、さらに連携を深めていく。

### 【前年度の成果】

・学校評価（保護者）の「確かな学力の定着」に関する3項目は、児童 87%以上、保護者 86%以上が「よくできている」または「ほぼできている」という結果が出ており、一定の評価は得られた。今後も教師の授業力向上を図っていく3年目の取組となる「本木5つの約束（学習・生活）」が浸透してきており、児童は落ち着いて学習したり、生活したりしている。

・児童の知的好奇心を引き出すために取り組んだ「調べる学習コンクール」は、R1年度 68.8%→R2年度約 96%→R3年 100%と参加率は年々増加。

・人権尊重教育推進校として、研究発表を実施。R2年度と比較し、児童の自尊感情を客観的に表す数値の高まりが見られた。

R2:3.02→R3:3.18 コロナ禍の中、研究授業を（7本）行うことができた。

・全学年 hyper-QU を年に2回実施。SCによる5.6年生全児童面談の実施。週1回の教育相談委員会（管理職・養護教諭・専科・特別支援教室専門員等）実施。学校全体で、配慮すべき児童を確認し、情報共有し、見守り指導していく体制を継続し、児童の心の安定を図ることができた。

・本校の児童の課題である、長座体前屈（柔軟性）、ソフトボール投げ（投力）、シャトルラン（持久力）の記録（平均）が全体的にほぼ上昇。中でも長座体前屈は男女共に全学年で記録が伸びた。

・学校評価「学校・家庭・地域の連携の強化」における情報発信の満足度は90%であった。必要な情報を伝えたり、HPからの情報、授業参観（3回以上）をしたりする等、可能な限り児童の様子が保護者に伝わるようにしてきた。今後も、基本的な生活習慣や家庭学習の定着を図っていく。

**【課題】**

**確かな学力の定着**

- ・児童の基礎・基本の学力定着を図る。個々のつまずきにおける取組を強化し、学び直しの徹底を図る。
- ・個々の教員の「授業力」をさらに向上させる。

**思いやりのある子の育成**

- ・児童が安心して自分のよさを発揮できる環境を整え、人権教育の視点を意識した教育活動をさらに推進させる。

**たくましい子の育成**

- ・児童が年間を通じて、体力向上を図ることができるよう、工夫した取組を行っていく。

**4 重点的な取組事項**

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R2	R3	R4	R5	R6
1	学力向上アクションプラン 確かな学力の定着 (学習意欲・基礎基本の力・考える力・授業力)	◎	◎	◎	◎	◎
2	思いやりのある子の育成	◎	◎	◎	◎	◎
3	たくましい子の育成	○	○	○	○	○

**5 令和4年度の重点目標**

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン 確かな学力の定着							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
児童が自分自身の学力のつまずきを乗り越え、自ら学ぶことの楽しさを感じる授業の実現		重点課題の学習習得 単元テスト・区調査2回目 達成率等 85%以上		通過率(国 79.0%算 80.3%) 平均正答率 (国 72.4%算 74.8%)		・目標達成・学習の定着 状況等は、6(1)を参照		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	授業力 向上	全教科	通年	・授業力向上の研修計画 ・足立スタンダードによる 授業の確立	・授業力向上の研修実施 ・教科担任制を実施 ・足立スタンダードの授業の 確立(めあて・まとめ・振り返り)	・年間7回以上の実施 ・全学年で教科担任制の実 施 ・足立スタンダードの授業 の習得 90%以上	◎	・研修 10 回 以上達成 ・教科担任制 実施達成 ・板書計画の 確立	◎
2 新規	基礎・基 本の学力 定着	国語 算数	通年	・担任・専科教員等が、 重点課題の学力の習得 (例：2年かけ算九九)	・学力向上委員長・担任・専 科教員等が連携し、授業・自 力解決等で取り組ませ、確認	・12月迄に合格 90%以上合格	△	・単元テスト 80.8%	△

3 継続	本木 タイム	全教科	通年 水土	・担任・専科教員等が、 指導・支援が必要な児童 への指導	・担任・専科教員等が MIM・ 単元テスト・区学力調査過去 問等の正答率 ・MIM・単元テスト・区・都・ 国学力テストの正答率等	・12月のMIM-PMでの3rdス テージでの児童15%以下 ・単元テストの平均正答率 85%以上(12月迄) ・区学力テスト達成率80% 以上(2回目)	△	・MIM約25% ・単元テスト 80.8% ・区の学力テ スト約70%(2 月)	△
4 継続	自力解決 タイム	全教科	通年 月火金						
5 新規	AIドリル	算数	通年	・担任が、家庭学習等の 時間に、個別で活用し、 つまづきを授業で解説	・個人・学級・学年毎のAIドリ ルの活用度	・12月迄に、AIドリルを1週 間に1回以上活用する児童 (3年生以上)が90%以上	◎	・AIドリル 活用97% 達成	◎
6 継	読書	全教科	通年	・年間で読んだ本の冊数 「読書通帳」に記載	・「読書通帳」に記載された本 の冊数・ページ数の合計	・学年の目標を達成した児 童の人数50%以上	○	・達成児童数 41.6%	○

重点的な取組事項－2		思いやりのある子の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
児童が安心して、自分のよさを発揮できる 学校生活の実現		<ul style="list-style-type: none"> <li>・hyperQU(全学年実施)の要支援群等の 児童や学級満足度尺度の改善</li> <li>・自己肯定感の向上(R3年度以前との 比較)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・QUにおいて、学級生活満足群 1回目56.7%→2回目62.5%改善</li> <li>・自尊感情(3つ)R3とR4ともに平均 自己評価・自己受容 R3:3.07→R4:3.01 関係の中での自己 R3:3.37→R4:3.36 自己主張・自己決定 R3:3.18→R4:3.21</li> </ul>	学級生活満足群は1回目比較し、5.8%改善。62.5% 全国平均よりもかなり高い。自尊感情の3つの項目 の中で、「自己主張・自己決定」が上昇。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
人権教育の取組	・研究授業7本	・人権尊重教育推進校発表会に向けて、 研究授業の充実	・コロナ禍の中、研究授業7本 実施	・児童理解の深まりを感じ る授業づくりが多く見ら れた。	◎
自己肯定感の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・hyper-QUを全学年 2回実施。要支援群 等の児童等の状況改 善。親和的な学級の 増加</li> <li>・俳句創作を年4回 以上実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・hyper-QUの分析と改善計画</li> <li>・教育相談委員会での情報共有と改善確 認(毎週金曜日)</li> <li>・生活指導夕会での情報共有と改善周知 (毎週月曜日)</li> <li>・年4回季節毎に創作し、感性・語彙力 を磨き、豊かな心を育む。コンクール等 にも積極的に参加。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・hyper-QUの結果・分析・改善を 職夕で共通理解。要支援群児童は、 1回目12名2回目13名。2回とも 要支援群児童は4名。教育相談委 員会において定期的に確認し、支 援方法を考え対応している。</li> <li>・俳句創作を年4回以上実施。読 売新聞に作品掲載される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童理解を大切にすること で、一時落ち着きのなかった 学級や学年も、後期以降は落 ち着いて学校生活を送るこ とができるようになった。</li> <li>・児童の取り組む姿や振り返 りの言葉からも、よい変化が 表れてきている。</li> </ul>	◎

本木・本気プロジェクト	・通年で1本以上実施 ・短期で1本以上実施	・児童自らが、学校生活をよりよくしている実感できるような取組	・内容において、子供たちの思いや考えを大切にしているものが見られるようになった。各学年の取組を発表する予定あり	・新1年生へのパンフレットづくり、挨拶運動等、心温まる活動を行う事ができた。	◎
-------------	--------------------------	--------------------------------	---	--	---

<b>重点的な取組事項－3</b>	たくましい子の育成
-------------------	-----------

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
規則正しい生活と体力・運動機能の向上	R3 年度以前と比較し今年度改善傾向あり	・柔軟性◎持久力○投力△	運動時間の確保	○

<b>B 目標実現に向けた取組み</b>
----------------------

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
規律正しい学校生活の徹底	・児童アンケートより、90%以上が肯定的回答 ・正しい鉛筆の持ち方をする児童 90%以上	・重点課題について、定期的なアンケート実施(年3回以上) ・担任による指導と家庭との連携	・重点項目の「挨拶」 R2.7月 (73.8%) R4.12月 (94.0%) ・正しい持ち方 37.5% (1月)	・「時間」や「整理整頓」 における指導を工夫する。 ・低学年での指導重視	○
健康・体力向上	・毎回の体育の授業で課題解決するための運動を実施 ・都 (R3) や本校の体力調査 (R3) の記録の比較平均値の上昇	・「体力アップ記録カード」を活用し、年2回記録を実施 ・研修にて、教員が課題(柔軟性・持久力・投力)改善のための運動を習得し、授業で継続的に取り組む	・長座体前屈 (柔軟性) R2 R3 R4 男子 29.4→30.9→32.4 (%) 女子 31.9→34.5→36.7 (%) ・シャトルラン (持久力) 男子 33.8→37.7→36.9 (%) 女子 26.8→28.6→28.5 (%)	・「体力アップ記録カード」により、児童の成長が見える化し目標設定をしやすくなった。 ・持久力、特に投力への取組を見直す	○
保健指導・食育指導の充実	・意識調査の「食事」と「睡眠」等に関する項目で90%以上が肯定的回答	・生活リズムカードの実施。 ・養護教諭や栄養士と連携した保健指導や食育指導の充実 ・保護者会や各種便り等を活用し、保護者への啓発	・生活習慣を確認するためのアンケート (6月実施) をとり、児童に指導したり、保護者に家庭での過ごし方の提起を行ったりすることで、健康への意識を高めていくことができた。	・情報の発信におけるアンケート、91%が肯定的な回答。生活習慣上の課題がはっきり見えた。家庭との連携を深めていく。	◎

<b>6 まとめ</b>
--------------

**(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性**

ア 学力向上アクションプランについて

【課題】国語：漢字・語句・ローマ字等の読み書き、辞書の使い方などの学力の定着に差がある。  
 文学的文章や説明的文章における内容を読み取る学力の定着が不十分である。  
 順序立てて自分の考えを書き表す学力の定着が不十分である。

算数：時刻、長さ・重さ、図形、数量の関係等の単元学習における学力の定着が不十分である。  
 文章問題に記述式で答える等、文章問題の内容を理解したり、根拠を示して説明したりする学力の定着が不十分である。

全体：学力の定着において、学級間・学年間の差がある。

【対策】国語：朝の時間で「視写」に取り組み、短時間に集中して文字を書くという力を身に付けさせる。併せて、正しい鉛筆の持ち方も習得させる。日常の授業の中で、語彙力を伸ばすような学習を取り入れ、児童が言葉に興味をもてるようにする。(俳句創作・言葉調べ等) 読書貯金の活用をさらに図り、読書活動の推進を進めていく。MIMの指導においては、図書の日時間等、毎週決まった時間に、専科の教員等が学級に支援に入り、個別の指導を支援する。週に1回(水・5時間目)を学校全体で「読解力向上の時間」と設定し、読解力の問題に取り組ませる。

算数：特に課題となっている単元について、具体物を使い、児童が実際に確認し理解しやすいように工夫する。低学年(1・2年)においても、算数の学習を習熟度別に行い、基礎・基本の定着を図る。「自力解決タイム」や家庭学習の時間を使って、難度を段階的に考えた計算問題に取り組ませる。毎月1回以上、計算コンクールを実施する。児童自身が自ら自分の目標に向かって頑張ろうとする意欲をもたせるように指導を工夫する。

全体：本校の実情に合った「教科担任制」の体制を整える。各々の教員が担当した教科の授業力を向上させる。「自力解決タイム」で個人の「読解力向上タイム」を活用し、学習・生活の規律において、全教職員で共通理解を図る時間を設け、学年や低・中・高学年のグループで同じ指導が行えるよう共通理解の徹底を図る。児童の成長の「見える化」を推し進める。児童自身にも、前の自分と今の自分を比べて自分の成長を意識させるようにする。授業や「自力解決タイム」等で、個々のつまづきを確認し、学年で分析する。AIドリルを活用し、課題を乗り越えさせる。

### 重点的な取組事項－1

・学校評価(保護者)の「確かな学力の定着」に関する項目で、「基礎学力の定着のための丁寧な指導」では、児童94%、保護・地域91%、「意欲を引き出す授業の工夫」では、児童93%、保護者・地域89%が「よくできている」または「ほぼできている」という結果が出ており、高い評価が得られた。・「読書通帳」の取組もR2年度26.6冊→R3年度38.6冊→R4年度42.5冊と年々増加してきている。

・今年度から実施の「計算コンクール」において、児童の意欲を高めることができた。目標に向けて頑張る児童の姿が多く見られるようになった。

### 重点的な取組事項－2

・人権尊重教育推進校として、研究発表を実施。コロナ禍において、研究授業を(7本)行うことができた。今年度は、前年度にも増して教科担任制を推し進めることができた。特に、3・4年生においては、児童アンケートからも児童理解を深めることができたということが検証された。

・全学年hyper-QUを年に2回実施。SCによる5・6年生全児童面談の実施。週1回の教育相談委員会(管理職・養護教諭・専科・特別支援教室専門員等)の実施。学校全体で、配慮すべき児童を確認し、情報共有し、見守り指導していく体制をとり、児童の心の安定を図る体制を継続することができた。

### 重点的な取組事項－3

・「学習規律や生活規律の徹底」においても、児童97%が「よくできている」または「ほぼできている」という結果が出ている。児童自身が落ち着いて学習したり、生活したりしていることがわかる。

・本校の児童の課題である、長座体前屈(柔軟性)、ソフトボール投げ(投力)、シャトルラン(持久力)の記録(平均)では、学校全体で柔軟性の力が確実に上昇してきている。投力・持久力については、日常の中で持続的な取組を新たに考えていく必要がある。

・「生活習慣を確認するためのアンケート」(6月実施)により、児童の課題を確認し指導に生かすことができた。次年度もアンケートを継続し、児童への指導、保護者への啓発を行っていく。

#### (2) 保護者や地域へのメッセージ

日頃より本校の教育活動にご理解ご協力いただきまして、感謝しております。本校は、特に授業の中で児童一人一人が自分のよさに気づき、自らの可能性を広げ、輝くことができるよう尽力して参ります。そのためには、一人一人の教師の授業力向上が重要です。研究授業だけでなく、日々の授業の中で、教師が互いに切磋琢磨できるような体制づくりに努めていきます。

これからも、本校の教育活動にご理解とご協力をいただきますよう、お願いいたします。

#### (3) その他(学校教育活動全般について)

次年度は、東京都人権尊重教育推進校として、研究発表会を行います。研究主題は「自分も人も大切に作る児童の育成～深い学びに向かうための指導の工夫～」です。今年度及び次年度の研究成果を研究発表会で多くの方々に知っていただき、東京都、足立区の人権教育における推進役としての役割を果たせるよう、研究に取り組んでいきます。

